安満遺跡

―弥生時代の暮らしと文化―

高槻市

安満遺跡ガイダンス

1. 史跡安満遺跡へようこそ
2. 安満ムラ全景
3. 竪穴住居
4. 環濠を掘り直す
5. 春の田仕事
6. 秋の収穫
7. 用水路と井堰
8. 集団墓地
9. 死者との別れ
10. 四角い墓

日本の始まり、高槻に。

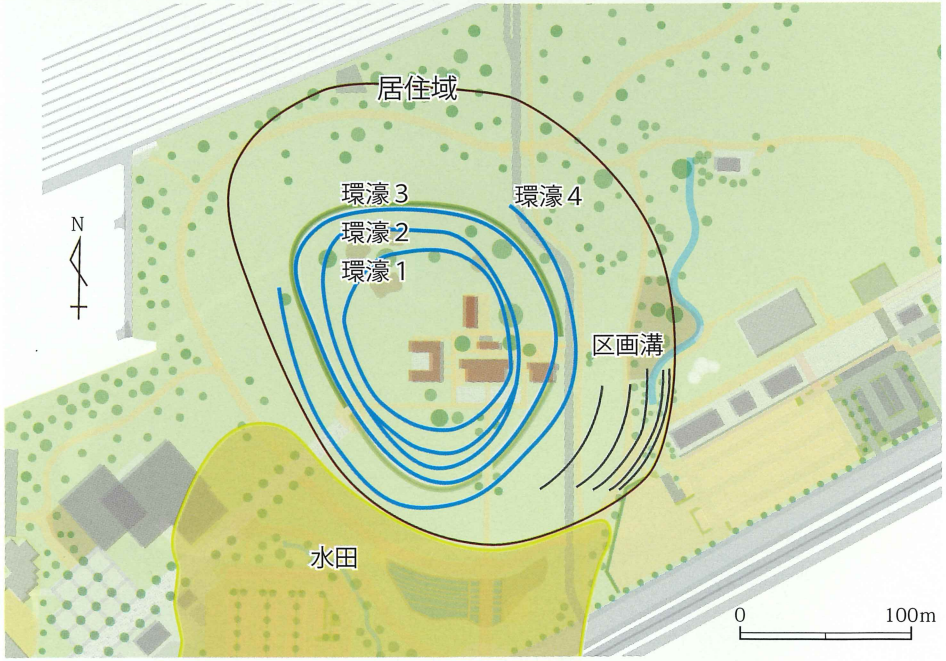
安満遺跡公園
ama site park

令和3年3月 発行

安満遺跡（あーまーいせき）

約2500年前、高槻市の中心部に、三島地域で初めて米づくりを行ったムラが地中に眠っています。ムラは、桧尾川が形成した扇状地の末端に位置し、安満遺跡と呼んでいます。

復元イラスト作成：早川和子さん



安満遺跡の環濠と水田

環濠１

環濠集落（かんごうしゅうらく）

遺跡の中心部にある住居と倉を取り囲む環濠を備えたムラのことを環濠集落と呼びます。居住域では、柱を立てた跡（柱穴）が足の踏み場もないほどたくさん見つかり、何世代にもわたって幾度も住居を建て替えたようです。環濠は人口が増えると、掘りなおされ、居住域を広げていきます。

竪穴住居（復元イメージ）

建物の柱穴跡

弥生時代前期の水田

春の田仕事

用水路と井堰

石包丁と農具

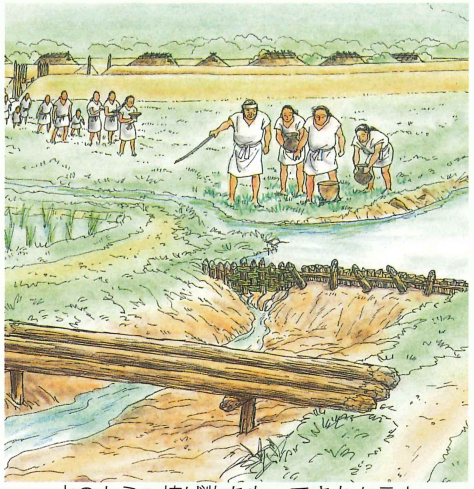
水田と稲作

当時の水田は、すでに水を配る用水路と水位を調整する井堰（いぜき）を備えていました。

地形に沿って畦（あぜ）を設けた小さな区画の水田は、ほとんど段差のない棚田のようです。水田で用いる農具は木でできていました。堅いカシノキ製のスキやクワ、稲穂を摘み取る石包丁が出土しています。木の伐採や加工にはもっぱら石斧が使われました。

ムラのマツリ

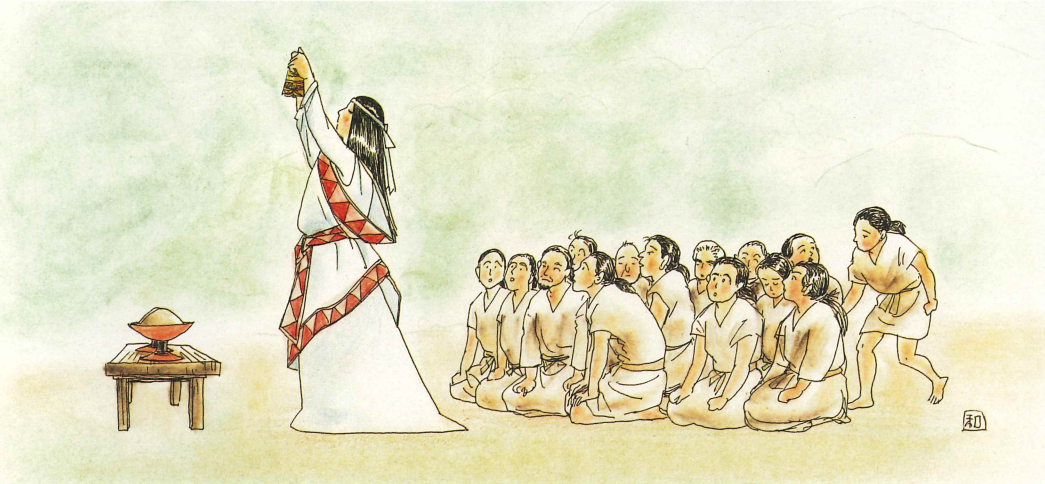
春には豊作を願い、秋には収穫を感謝するマツリをムラ人はこぞって行いました。巫女が打ち鳴らす銅鐸の音色は、神秘的に聞こえたことでしょう。また用水路では井堰の脇で、黒と赤の顔料でていねいに文様を描いた壺や、漆を入れた小壺が見つかりました。水が絶えないことを願い、捧げたのでしょう。



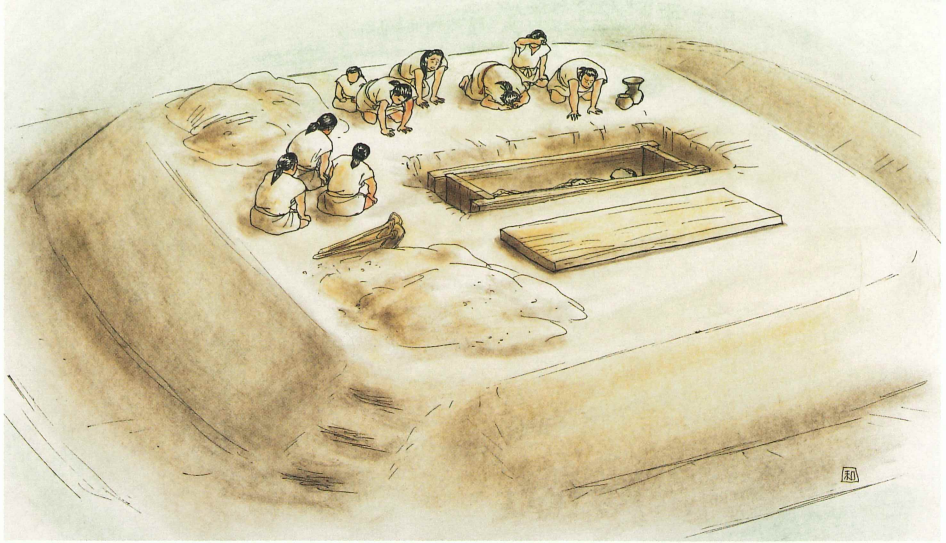
水のカミへ捧げ物をもってきたムラ人

マツリで使われた赤彩の土器

漆を入れていた小壺



マツリで銅鐸を鳴らす巫女



方形周溝墓への埋葬

集団墓地

居住域の東西では、溝で四角く囲み、土を盛って造った方形周溝墓という墓を100基以上発見しています。それぞれの墓には数人が葬られ、家族墓とみられます。棺にはコウヤマキという特別の木材が選ばれました。ムラ周辺にはない木材なので、交易で手に入れたようです。また墓の上には、独特の形をした大形の壺などを供えていました。

方形周溝墓に供えられた土器

発見された方形周溝墓

コウヤマキで作られた棺

装い

環濠から出土した赤漆塗りのクシやカンザシは、縄文文化の伝統をひく逸品です。鮮やかな朱色は誰の目にも神秘的に映ったことでしょう。ガラス製の勾玉や小玉もあります。こうした装身具はムラのリーダーや巫女のような特別な人だけが身に着けていたのでしょう。

赤漆塗りのクシ（右）とカンザシ（左）

勾玉・小玉と原石

洪水と復興

ムラは、時に大洪水に襲われました。環濠を埋め、水田を覆った分厚い土砂は洪水の激しさを物語ります。

被害を受けた人々は、埋まった水田の上に方形周溝墓を造り、さらに低い場所へ水田を造り直しました。環濠もあらたに掘りなおし、災害にもくじけず、ムラはさらなる拡大と発展を遂げていきました。

洪水で埋もれた足跡（22.0cm）

灰色の土砂で埋もれた水田